

現地適応化試験(大分方式乾燥法)に取り組んでいます。

大分県では民間企業の十数社が「大分方式」と呼ばれる木材乾燥法に取り組んでいます。この乾燥技術は、乾燥機の数が少なくても乾燥材の生産量を増やし、しかも割れの少ない高品質の乾燥材を生産できることで注目されています。

具体的な方法は、木材乾燥機を利用して製材品を高温(120)で数時間加熱し、木材の表面を高温セット処理(表面割れを抑制する処理)を行い、その後天然乾燥して含水率を下げ、最後に仕上げ乾燥を行って乾燥材を生産する技術です。

今年度、岩手県内においても材面の割れが少ない高品質

の乾燥材の大量生産技術を現場に普及させることを目的に、大分方式の岩手県産スギに対する効果を検証するために、現地適応化試験を実施しています。

現在、奥州市水沢区の株式会社オノダの協力を頂いて試験を行っています。第一回目の処理は高温120度で12時間処理を行い、現在、乾燥経過中の重量の変化などを調査中です。今後、天然乾燥を数ヶ月間実施した後に仕上げ乾燥を行い、割れ防止等の効果を検証する予定です。

さらに、別の熱処理条件での処理も行い、様々な角度から効果を検証する予定です。

